



ユネスコ群馬 No.89

Unesco Gunma

群馬県ユネスコ連絡協議会 / <https://gunma-unesco.com>

事務所 / 群馬県教育委員会生涯学習課

つなげよう平和の心 広げようユネスコの輪



年頭のご挨拶

群馬県ユネスコ連絡協議会
副会長 串田 昭光

群馬県ユネスコ連絡協議会は、「広げよう平和の心—持続可能な社会の実現を目指す民間ユネスコ活動」をテーマに掲げ、その実現に向けて各種活動を推進してきました。戦後80年という節目の本年度は、1月に開催された第11回群馬県ユネスコスクール研修会をもって、滞りなく事業を終了いたしました。

本年度は、県内各地で実施された第二次世界大戦に関する証言・体験談、遺物・遺作展等がメディアで報じられるたびに、平和の意義と活動継続の必要性を改めて認識する一年となりました。世界が戦争の深い反省に基づき平和を希求して採択したユネスコ憲章前文は、活動の礎です。しかし現下の国際情勢は、国際平和を脅かす深刻な事態にあり、ユネスコの普遍的使命を再確認し、発信する必要性を強く感じました。

特色は、「2026年度関東ブロックユネスコ活動研究会 in 群馬」に向け、オール群馬での体制整備や開催趣旨の検討・作成に取り組んだ点が挙げられます。その際、50年ぶりに改訂された「平和と人権、国際理解、協力、基本的自由、グローバルシチズンシップおよび持続可能な開発のための教育に関する勧告(2023)」を参照し、平和に関する新たな理解や持続可能な開発のための教育など、現代的視点を踏まえて議論を深めました。

本会を5年有余にわたり志高くアグレッシブに牽引し、その発展に大きく寄与された岸正博会長が、藤岡市教育委員会教育長職の継続のため12月1日付で辞任されました。前途に多くの課題を抱えますが、これまでの歩みをしっかりと受け継ぎ、更なる継続と充実に向けて一丸となり活動を進めていくことをここにお約束し、結びといたします。



新年のごあいさつ

群馬県教育委員会
教育長 平田 郁美

明けましておめでとうございます。

群馬県ユネスコ連絡協議会の皆様には、日ごろよりユネスコ憲章の理念に根ざし、地域の子どもたちや地域の皆様とともに、平和と共生の社会づくりに向けた多彩な活動を展開していただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、県教育委員会では、未来を担う子どもたちが、自ら学び、考え、行動する力を育む教育の実現に向けて、様々な施策を展開しております。特に、変化の激しい社会に対応できる資質・能力の育成、多様性を尊重し協働する力の育成、教育DXやインクルーシブ教育の推進、非認知能力の育成など、時代の要請に応える取組を進めております。

また、義務教育諸学校では「ぐんまエージェンシースクール」が始動しました。子どもたちが主体性を発揮し、自らの意思で学びを深める場面が広がり、保護者や地域の皆様との協働によって、未来を担う子どもたちを共に育てる機運が高まっています。

こうした取組は、ユネスコが掲げる「持続可能な開発のための教育(ESD)」とも深く通じるものであり、改めてユネスコ活動が果たす役割の大きさを実感しております。

今後も、皆様と連携しながら、平和で持続可能な社会の実現に向けて歩みを進めてまいりたいと考えております。

結びに、新しい年が希望に満ちた1年となりますとともに、群馬県ユネスコ連絡協議会のさらなる御発展を御祈念申し上げまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

県ユ連主催事業

群馬県ユネスコ連絡協議会視察研修in安中 —アプトの道ウォーキング大会—

安中碓氷ユネスコ協会 会長 矢野 薫

令和7年6月1日(日)前日からの雨も上がり、安中市の碓氷峠の森公園交流館「峠の湯」発着で、群馬県ユネスコ連絡協議会視察研修in安中「アプトの道ウォーキング大会」を開催しました。

日本ユネスコ協会連盟は、100年後の子どもたちに地域の文化・自然遺産を伝えるため未来遺産運動を推進しています。また、安中碓氷ユネスコ協会は碓氷峠鉄道施設群の世界文化遺産登録を目指し地道な活動を続けています。

本研修は、碓氷峠鉄道施設群の歴史的価値を伝え、郷土の貴重な遺産の保護・保全のあり方を探り、県内各ユ協の活動の更なる活性化を図るとともに、県内会員相互の親睦を深めることを目的に、県内各ユ協会員40名、安中市民等を含め約300名の参加で開催しました。



▲開会行事にて

安中総合学園高校生による和太鼓演奏のアトラクションに続き、碓氷峠鉄道施設群世界文化遺産登録有識者会議代表の萩原豊彦氏並びに解説ボランティア3名を講師に迎え、峠の湯から旧熊ノ平駅までのアプトの道を歩き、鉄道施設を実際に視察しながら、歴史・文化的な価値や実際にどのように使用されていたか等について学びました。



▲解説を聞く参加者

途中、上原梅弦氏の津軽三味線を聴いていただいたり、めがね橋上でシャボン玉大会を実施したりし、参加者に楽しんでいただきました。研修の目的である、碓氷峠鉄道施設の歴史的価値を伝え、郷土の貴重な遺産の保護・保全のあり方を探り、各ユ協の活動の更なる活性化を図るとともに、県内会員相互の親睦を深めることができました。県内各地から参加していただいた会員の皆様にご感謝申し上げます。

持続可能な作品展の発表を通して

太田ユネスコ協会事務局次長 新井 静江

9月27日、関東ブロックユネスコ活動研究会が深谷市民文化会館において開催されました。開会行事の後、地域とのかかわり合いの中で、「教育・科学・文化」の分野を通して、ユネスコ活動をいかに次代につなげていくかをテーマに、2つの事例発表と協議が行われました。一つ目は深谷地方ユネスコ協会、二つ目は主催県からの依頼に応え、本協会が長い間行っている「文化」の分野における実践を発表しました。



▲関ブロ発表

テーマは持続可能な「諸外国交換ユネスコ児童・生徒作品展」～学校・PTA・地域との連携を通して～です。今年で第58回となる作品展は協会設立当初から開催し、

優秀作品を諸外国交換作品として国際交流に役立て児童・生徒の心に世界平和と国際理解の精神を育むことでESDに貢献するとともに、ユネスコ活動への市民の理解を深めることを目的に実施しています。運営にあたって校長会組織のユネスコ担当校長先生にお世話になり、役員とともに開催要項の作成や案内の送付、作品の受入れや展示など多くの事務や作業を行っています。市内の学校や園から600点余の書画の出品があり、全作品の展示にPTAの協力をいただき、地域の26の機関・団体から援助金や賞下付もいただき全員に賞状と賞品を贈呈しています。



▲作品展

多くの協会が会員の減少と高齢化という課題を抱える中、持続可能なユネスコ活動に向け、様々な工夫や改善で作品展を継続してきた実践を発表したことで、終了後のアンケートにとっても参考になったという声を多くいただき、今後の事業推進の励みになりました。

2025年度県ユネコ連主催 「運営研修会兼事務局員研修会」

高崎ユネコ協会 会長 串田 昭光

令和8年1月25日(日)午後1時より高崎市中央公民館 視聴覚集会室にて、県ユネコ連主催、高崎ユネコ協主管による運営研修会兼事務局員研修会が、県内9ユネコ協(11ユネコ協中)約40名の出席により開催されました。



▲ ユネスコの歌斉唱

今回は、急激な少子高齢化やAIの普及という社会変化、絶え間ない国際紛争や隣国との関係悪化、また外国籍の人や異なった意見を排斥する風潮の中、求められる国際平和と人類の共通の福祉を謳うユネスコ憲章の精神を育む各ユネコ協の持続可能な組織や活動の在り方について情報共有することを趣旨としました。

開会行事では、高崎市少年少女合唱団とともに「手に手をとって」を合唱し、事例発表では、まず、松本千恵子理事が「日本ユネスコ国内委員の体験」と題し、2021年12月のコロナ禍の辞令交付から3年間の得難い体験を発表しました。



▲ 研修会場

次に、峯岸弘和理事が「各ユネコ協のアンケート調査結果・分析」を発表しました。今年度と令和4年度のアンケート結果を比較し、研究協議に先立ち各ユネコ協の現状を共有し、成果と課題、今後の方策等を考える方向性が示されました。

最後に、会長串田が少子高齢化の社会的状況下で高ユネコ協の持続可能な運営は喫緊の課題であり、その課題解決に向け、先人が56年間にわたり会員の獲得・組織の拡充といった観点より実践してきた「考えや取組」をまとめ、「会員確保のための実践」と題して発表を行いました。具体的には、①会員・組織の拡充に向けた「基本的な考え」②会員・組織の拡充に向け「具体化する取組」(・通年における募集・会員確保の間接的な取組)③会員・組織の拡充&「持続可能な組織」(・日常的な情報発信・計画的な啓発活動による「開かれた組織」・活動の実態把握や他団体等との「連携を模索する組織」)を内容とします。

その後、会は研究協議へと移り、趣旨に関わる各ユネコ協の取組について活発な意見交換が行われ有意義で濃い時間を過ごし閉会となりました。

第11回群馬県ユネスコスクール研修会 (兼 第14回藤岡市ユネスコスクール研修会)

藤岡地方ユネスコ協会事務局次長 木村 順子

「群馬県ユネスコスクール研修会」(主管:藤岡地方ユネスコ協会)が、1月27日(火)、地域づくりセンター藤岡を会場に、学校教職員、教育委員会関係者、企業、県内各ユネコ協から70名が参加して行われました。



▲ 岩本教授の講演

第1部で東海大学教養学部人間環境学科・同大学院人間環境学研究科教授、岩本泰様に「持続可能な地域の創り手を育む教育」について講演いただきました。地域全体で子どもの学びや成長を支えていくことで、子どもが自分の住む地域に対して愛着や誇りを持てるようになり、ふるさとを離れても地域の当事者としての意識を持って故郷に戻ってくる。そんな地域の創り手を育む生き方教育・キャリア教育が大切であると学ぶことができました。

第2部では鬼石北小学校の山田章恵校長、同瀧公恵養護教諭、鬼石小学校吉村菜優養護教諭から「自らよりよい睡眠習慣を身に付ける児童生徒の育成～子ども睡眠健診の実態を踏まえて～」というタイトルでSDGs活動報告が行われました。

鬼石連携型小中学校では、デバイスを使った「子ども睡眠健診プロジェクト」(代表:岸哲史東京大学講師)によるデータをもとに、睡眠の振り返りと改善ができたこと、たくさんの学



▲ 鬼石北小、鬼石小の発表—睡眠健診—

びの中で「よい睡眠は最大の武器」であることを実感しました。

株式会社原田・ガトーフェスタハラダ環境施設管理部倉林秀依部長からは「環境経営活動について」企業としての取組と組織体制について報告いただきました。CO₂削減、廃棄物を家畜の餌に再利用、水の使用量減、太陽光発電の実績、食品残渣のリサイクル状況(再生利用率99.9%)、自然を守るための尾瀬への支援等の取組です。



▲ 協議—地域全体で子どもの学びを支える—

全体協議では、コミュニティスクールとユネスコスクール、学習の素材としての企業など、多岐にわたる質疑・協議がなされました。

各ユネスコ協会だより

桐生ユネスコ協会

桐生新町と近江商人の生業

会長 田中 一枝

近年では1年間の活動報告の形式で原稿を作成しておりましたが、今年度は慣例にとらわれず、協会として持続可能な目的に沿ったタイトルの報告をいたしたいと存じます。

桐生は歴史と伝統が古く、西暦1,600年頃、徳川家康の命により、大久保長安から大野八右衛門により桐生新町の町割りが行われたこと等々、奈良彰一氏他過去何人かの講師に講演をお願いしてまいりましたが、今回は、桐生の中心をなす本通りの商店街が、気付いてみると滋賀の近江商人によって今日まで数百年の間、脈々と代々引き継がれ守られてきていることに改めて感動しました。このことについては、本町通り1件1件の商店の歴史を調べ、矢野本店はじめ何冊かの書籍を出版されている川島伸行氏に「桐生新町と近江商人の生業」という題目で、講演をお願いいたしました。同氏は、自費で本町通りに歴史資料館を開設され、訪れる多くの観光客から感銘をいただいているところです。



▲川島伸行氏による講演

次回は、①織物の町として独特の形態を持つ買継商人による売買取引について②元県連副会長でありました北川紘一郎氏が、情熱を傾け世界遺産を希望した町中の



▲矢野本店

織物工場跡である「ノコギリ屋根」を中心とする重要伝統的建造物について③幕末、桐生の妹を訪れている渡辺崋山の紀行文をはじめ多くの偉人についてを予定させていただいております。

ユネスコの理念に基づき、持続可能な目的に沿ったタイトルを追っていきたいと思います。

太田ユネスコ協会

世界寺子屋運動の充実に向けて

会長 中村 利光

世界が抱える教育問題として、ユネスコの資料から紛争・難民・貧困・ウイルスなどにより読み書きのできない大人が7億3900万人、学校に通えない子どもが2億7200万人います。教育を受けられないことで読み書きや計算ができず、安定した職業に就けないことで収入も少なく、子どもが学校に通えないという貧困の連鎖が続いています。

本協会では日本ユネスコ協会連盟の世界寺子屋運動へ平成5年に参加し、33年間にわたり書きそんじハガキ回収や募金活動等を行っています。しかし、ハガキの回収は協会理事の家庭に頼っていたため毎年数万円の送金に限られました。コロナ禍で事業の多くが通常形で実施できない令和2年に、書きそんじハガキ回収を重点事業として取り組むことにしました。学校へ協力をお願いするとともに事業が円滑に進むよう、校長会議の席で趣旨や方法を説明し多くの小・中学校からご理解とご協力をいただけることになりました。新設の世界寺子屋運動委員長が中心となり、11月の案内配布から2月のハガキ回収・感謝状送付まで、学校の負担にならないよう各校担当役員が連絡・調整に努めて来しました。

その結果、毎年20校ほどのご協力をいただき直近の5年間で1万2700枚のハガキを回収し、69万円を日本ユネスコ協会連盟に送金することができました。平成5年からの累計では141万円となり、継続は力なり継続は宝なりを心に、今後も積極的に学びの場の提供に取り組みたいと思います。



▲作業の様子



▲書きそんじハガキ

前橋ユネスコ協会

前橋ユネスコ協会事業報告
— 出前講座 —

会長 須藤 英雄

前橋ユネスコ協会の本年度事業について報告いたします。本年度は、5月17日(土)定期総会後に前橋在住のインドネシア・バリ州に伝わるガムラン演奏家・國崎理嘉さんの講演とガムランの調べを聴きました。6月21日(土)平和の鐘を鳴らそう、9月10日(水)出前講座、10月4日(土)～13日(月)私の住みたい夢のまち絵画展、10月23日(木)～11月2日(日)インドネシア交流事業、11月16日(日)文化遺産めぐりを実施しました。その他、県ユ協事業へ参加、日ユ協の総会や大会、関東ブロック大会への参加をしました。今後、書きそんじ葉書収集事業を実施します。

その中から、今回は、出前講座を紹介いたします。

前橋ユネスコ協会は、前橋市が行う「それいけ！まえばし出前講座」に市民講師として以前から登録していました。登録している講座は、《地球規模で考え、地域で行動しよう！カンボジアにおけるユネスコ世界寺子屋運動の紹介》「中国・インドネシアとの国際交流」です。

しかし、コロナ禍によって、これまで依頼がなかったのです。そして、今年、初めての依頼がありました。その依頼者は、前橋特別支援学校でした。

そこで、用意してあった説明資料を見直して、なるべく写真を増やし、現地から持ち帰っている子どもたちの絵画やインドネシアの産物、そして二胡演奏で中国の音に触れるなど、体感を意識した内容としました。対象の子どもは中学1年生12名と教職の方でした。

実際に出前講座を実施してみると、肌で感じる事ができるものに興味があるようで、もっと写真や、音楽を含む動画など、心に訴えるものを多く準備したらよかったかなと感じました。今回の経験を生かして資料の改善をしていきたいと思ひます。



▲ 出前講座



▲ 二胡演奏

伊勢崎ユネスコ協会

伊勢崎ユネスコ協会の活動

会長 長沼 宏泰

2025年も多くの国際紛争が継続するとともに、新たな紛争が発生し、解決の見通しも難しい状況が続いています。また、自国優先主義が続き、分断を感じさせる時代にもなりつつあります。

本協会では、5月20日(火)、宮郷公民館で開催された総会に、本市を陣頭指揮する臂泰雄市長を講師にお迎えし講演会を開催しました。「伊勢崎市SDGs未来都市計画への取組」という演題で、「～持続可能な多文化共生都市を目指して～」を副題として行われました。本市は、2025年に内閣府より「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定されました。伊勢崎ユネスコ協会も、この取組に最大限の協力そして尽力したいと考えています。

8月19日(火)～22日(金)伊勢崎市子ども会育成会連絡協議会の協力を得ながら「第49回伊勢崎ユネスコ子ども作品展」を市役所市民ホールで開催しました。小中学生から習字182点、絵画120点、工作92点の出品がありました。世界平和、国際協調、地域の連携・発展等を願うユネスコ精神に沿ったものが多く、参観者からも多くの感心の声が寄せられました。参観者が578名あり、



▲ 伊勢崎ユネスコ子ども作品展

子どもの持つ力のすごさを改めて感じます。

10月16日(木)秋の研修を実施しました。再来年のNHK大河ドラマの放映が決まった小栗上野介ゆかりの地である高崎市倉渕町に出かけました。罪なくして斬首された水沼河原に建てられた「小栗公顕彰慰霊碑」、小栗上野介に関する史跡や遺品が多く残されている「東善寺」、「榛名歴史民俗資料館」などを訪ねました。あいにくの小雨模様でしたが、予定した見学地をすべて回ることができました。参加して良かったという声を参加者から多く聞くことができました。

今後は、新春会員の集い、書きそんじハガキの回収、伊勢崎ユネスコ新聞発刊等、会員の皆様と楽しく充実した活動にしていきたいと思ひます。

高崎ユネスコ協会

年間の活動概要と野外体験活動 「青少年ディキャンプ」について

副会長兼事務局長 山崎 貞幸

本協会は、今年度56年目を迎え、主な活動として、青少年ユネスコキャンプ(野外活動)、国際理解バス、国際児童画展、ユネスコ作文集、子どもの幸せを考える研究集会、世界寺子屋・書きそんじハガキ運動、スプリングフェスティバルバザー等を実施した。また、児童画展と作文の入賞者(小・中学生対象)には「合同表彰式」で一堂に会して授賞している。上記の事業については、年度当初の総会で承認され、予め、事業提案が示され、月毎の理事会において、協議・検討のうえ、担当役員・理事・事務局員の総意の下で初めて実践活動となる。その他に広報の発行や会員・賛助会員の勧誘・集金等が行われているのが現状である。

さて、今回「第53回野外活動『青少年ディキャンプ』」を取り上げてみたい。主な趣旨は、野外炊事等の自然体験において、共同的な作業体験を通して多様性を認め合える意識の醸成を図り、体験活動を通して、お互いに協力する心を育み、自主的に活動する心を養う。そして、JICA職員の講話等を通して、明るい未来



▲野外活動みんなで調理作業

を信じ、世界の人々が自由で平和且つ豊かに暮らせるよう外国のことを進んで学ぶことをねらいとした。晩秋の候、観音山キャンプパークジョイナスという施設を使用して、小4～中2の児童・生徒27名が参加した。活動内容は、午前中に野外炊事(カレーライスづくり)、午後は、JICA職員の講話(国際協力体験談とカードゲーム)をメインとして行い、ほぼねらい通りに達成できた。参加者のアンケートにも体験作業を安全に留意してできたことや講話やゲームから世界を知り、楽しく学べたという感想が多かった。また、6班編成に、役員の指導者とユースのリーダーが積極的に係わってくれたことが大きな収穫と言える。



▲カードゲームで世界を知る

富岡ユネスコ協会

「今年度の活動報告」

会長 齋藤 勝也

まず富岡ユネスコ青少年少女合唱団の活動報告をさせていただきます。

毎週土曜日約2時間の練習を重ね、「かぶらの里童謡祭」「富岡市民文化祭」「青少年少女合唱団群馬県フェスティバル」等の発表を経て、3月1日に、集大成である定期演奏会が開催されました。



▲ユネスコ合唱団定期演奏会

今年度は「富岡ひばり第二こども園」の年長児23名と吹奏楽を通して仲良くなったママたちのグループ「アンサンブル・マミーズ」の賛助出演もあり、3部にわたる2時間の合唱と演奏で176名の観客に心豊かな楽しい時間を創出してくれました。

次に長年続けているユネスコ活動普及啓発作文では市内小中学校児童生徒より255編が寄せられ、その中から会長賞1、最優秀賞7、優秀賞19作品を選出し、各学校3学期始業式等に出向き、全校児童生徒の前で表彰させていただき、合わせて書きそんじハガキキャンペーンのお願いもしてまいりました。

作文の内容はユネスコについての自分の考えであったり、世界遺産富岡製糸場について、あって当たり前、レンガ造りの大きな建物だなくらいに思っ



▲啓発作文表彰式

ていましたが、見学をし、歴史を学ぶ事によって理解が深まっていきました。日本の近代化に先駆け良質な生糸を大量生産し海外に輸出し、日本が成長するきっかけになった事、一本の紡がれた糸が日本の絹となり、世界へと広がる「糸」は単に布を作るためだけでなく、人と人、昔と今を結びつける力を持っている、そして自分も糸のように昔と今、そして未来に繋いでいける人になりたいなど、世界遺産価値の認識を深めていました。

また広島市の「原爆ドーム」資料館の見学は信じがたい事実の連続で目を背けたくなる中、これらを知るだけでなく、伝える「知って、伝える」連鎖が国境を超えて人類の過ちを二度と起こさず平和に近づいて欲しいなどの作品が多かったです。

因みに会長賞、最優秀賞の8作品は7月富岡市に全戸配布される市報と共に富岡ユネスコだよりに掲載することとなっています。以上2点報告させていただきました。

沼田ユネスコ協会

沼田ユネスコ協会研修視察 富岡市方面の史跡を訪ねて

理事 金子 修

今年度は、諸活動が順調に進められた。そのいくつかの活動内容を紹介します。

1 第16回平和の鐘を鳴らそう 7月12日(土)

「わたしの平和宣言」を英文で唱和し、「平和への祈りを込めて」市内4か所の寺院とキリスト教会、ホテルペラヴィータの鐘を鳴らした。100名ほどの参加者があった。沼田高校はちょうど文化祭の一環として学校の五常の鐘を鳴らしていただいた。



▲平和への祈りを込めて

2 国際理解バス 8月8日(金)

今年は市内中学生21名、高校生3名、役員3名の27名が参加し、つくば JICA、つくば JAXA で体験学習をした。

参加者の感想

①沼田南中学校3年 貝瀬 俊太君

「…ルワンダに派遣された勝村貴子さんは、元々特別支援学校で20年働いてから JICA に応募し、ルワンダで教材の工夫、弱視ろう生徒への個別授業、啓もう活動などたくさんのごことに貢献し、すごいと思いました。僕は小学5年の時に学校に JICA の人が来て体験談をお聞きし、そこから JICA に興味を持ち、今回の実際の施設見学や、詳しいお話を聞いて、将来 JICA に入りたいという気持ちが強くなりました。…」

②利根実業校高校3年

中島 大翔君

「JAXA では宇宙開発の魅力に触れ、はやぶさ2号の模型や実物大の H-II A ロケットエンジン展示に圧倒されました。インタラクティブな宇宙では宇宙ミッションのシュミレーションを体験でき、子どもから大人まで楽しみながら学べる工夫が施されて、…宇宙開発の複雑さやリスクも実感し技術者の努力に敬意を抱きました。…」



▲つくば JAXA

3 研修視察:高崎方面 10月23日(木)

再来年の大河ドラマ「小栗上野介」の事績をたどりたいということで、会員22名で、高崎市方面(倉渕町権田の東禅寺など)の研修視察をした。

特に、東禅寺住職村上泰賢氏から小栗上野介の生涯について、1時間半にわたる歴史講話をいただき大変丁寧で内容も濃く、興味関心が高まった。



▲東禅寺

館林ユネスコ協会

「令和7年度の活動報告」

館林ユネスコ協会 会長 大野 泰弘

館林ユネスコ協会の事業について、紹介いたします。

紹介する事業は、7月24日に市内の小学4~6年生を対象にした、ユネスコサマースクールです。研修先は栃木県防災館・宇都宮市環境学習センター・大谷資料館とし、参加者は児童が41名、会員及び事務局が9名で合計50名でした。栃木県防災館では、いつ訪れるかわからない自然災害への知識と対策を実際に体験を通して、学びました。



▲栃木県防災館

また、宇都宮市環境学習センターではごみ処理場の見学、ごみからどのように資源になっていくのか、SDGs についての知識を学びました。大谷資料館では、昔の人たちがどのような方法を活用し、あれほど大きな空間を



▲ユネスコサマースクール

作り出すことができたのか、どのように大きな石を外に運び出していたのかを学びました。

一昨年度から引き続き、参加児童には感想文を書いていただき、最終的には文集にまとめ他の参加者の感想を読むことで、学習を振り返る時間を作ってもらっています。ページをめくると、非日常的な体験を通して子どもたちが成長したことに加えて、学校や学年を超えた子ども同士の交流の場になったことがうかがえました。

当ユネスコ協会では、来年度も更に実りのある事業を計画し実施していきたいと考えております。

安中碓氷ユネスコ協会

人の心の中に平和のとりでを築く 「ユネスコシンポジウムin安中2025」 の開催

安中碓氷ユネスコ協会 会長 矢野 薫

安中碓氷ユネスコ協会では9月13日、市内の中高生の心の中に平和のとりでを築くことを目的に、テーマ「真の平和とは何か？—ウクライナ避難民から学ぶこと—」とし、市内高等学校の生徒会役員、インターアクト部員、JRC部員、国際交流協会会員等、約70名の参加を得てユネスコシンポジウムin安中2025を開催しました。

開会行事に続き、群馬大学のウクライナ留学生マリア氏の発表から、ウクライナ軍事侵攻の悲惨さを理解し、真の平和について考えることで、若者の心の中に平和のとりでを築くことを目指しました。

群馬大学の協力を得てロシアによる軍事侵攻の実態を理解すると共に、募金活動によりウクライナ避難民を支援したいと始めたこのシンポジウムは今回で3年目となります。今回のマリア氏のプレゼンテーションは全てリニューアルされ、最新の情報を提供していただきました。

マリア氏の発表に続き、参加者が学んだこと、軍事侵攻に関する新たな発見等を発表しました。軍事侵攻(戦争)のあまりの悲惨さ、惨たらしさ、ロシアの非人道的なやり方に多くの生徒たちは大きなショックを受けました。

続いて、「真の平和とは何か？」について皆で考えました。日本の若者がウクライナのティーンエイジャーの置かれた悲惨な環境に自らを置き換えて考え、メッセージにまとめ発表しました。

最後にウクライナ支援募金を贈呈し、岩井均安中市長より激励の言葉を頂戴しシンポジウムを閉幕しました。1日も早く軍事侵攻が終息し、ウクライナに平和が訪れ、避難民の方たちに平和な日常が戻ることを願ってやみません。



◀ウクライナ支援を贈る



シンポジウムの▶意見発表

藤岡地方ユネスコ協会

国際社会に目を向ける

副会長 依田 治雄

例年どおり、5月に総会を開催して、スタートしました。本会は会員、維持会員等併せて、約270名の会員で維持、運営されています。会員はほとんど固定されていますが、近年減少傾向にあるのが課題です。

予算規模は140万円くらいですが、国際理解バスのバス代を市から補助していただき大きな支援となっています。

今年度も例年の行事を執行できました。英会話教室ヨ



▲JICAワークショップ

ガ教室なども市民の人気です。大きな行事では国際理解バスと外国人日本語弁論大会です。

今年度は国際理解バスでJICA地球ひろばとカンボジア大使館を訪問しました。市内5中学校から、5名ずつの参加と今年初めての大学生数名の参加がありました。

カンボジア大使館では大使自ら説明していただき、日本とのつながりや国の内情など勉強しました。あまり知られていない国でしたが、東南アジアを理解するのに役立つと思います。



▲カンボジア大使館

毎年事後学習として1,200字のエッセイをまとめています。こういった文章を綴ることで更に理解を深め、国際視野が広がっていくと、考えます。この行事をきっかけに国際社会へ目を向ける若い世代が育つことを期待しています。

藤岡市に働きにきている外国人はALTの先生を除いてはベトナム、インドネシア、ミャンマーの人が多いです。弁論大会に参加してくれる人は皆仕事や周囲になじむような真面目な人たちです。外国人の問題が種々ありますが、このような人たちばかりなら、理想的な共生社会がつけれると思います。

大泉ユネスコ協会

今年度の活動状況の報告

副会長 槻岡 則夫

今年度は定期総会を5月10日に開催し活動を始動。7月12日(土)「民間ユネスコ運動の日」記念事業は、一昨年度に続き『マンドリン演奏会』を開催。昔懐かしい曲目の演奏に参加者から、青春時代にタイムスリップし、心地良い時間を過ごせた、感謝の気持ちを忘れずに思いを新たにしたいなどの感想をいただきました。

8月5日(火)「国際理解バス研修会」開催。事前研修として、7月28日に顔合せ、研修概要、班分け及び英会話研修を実施。研修会当日は最初につくば市の JICA で担当者から JICA の役割や国際協力は世界をよくするだけでなく、日本の生活を守るため大切な事と説明がありました。続いて元海外協力隊員のお話は、ニカラグアで健康教室を開催し病院関係者、母親、子どもたちに健康意識の向上を図る活動事例など話されました。外国人研修生との交流会では手造りのおみやげを渡し英語で自己紹介や質問し積極的に異文化交流に努め、次に、JAXA では国際宇宙ステーションの日本の実験棟「希望」の実物大モデルの中に入ったり、本物のロケットエンジンを見たり、宇宙を身近に感じて「世界や宇宙」に関心を高めた事でしょう。

9月24日「会員研修視察旅行」は最初に渋沢栄一記念館で、栄一がヨーロッパ仕込みの先進的な発想と実行力で幅広い分野で尽力された史実に触れ感銘しました。次に国会議事堂の見学では、私達国民の生活に直接関わる国の政治を司る場であり身の締まる思い出で見学。



▲ 国会議事堂

10月24日「高校生意見発表会」は町内高校生6名が目標や思いを熱く語り中学生の進路に役立つ内容。

11月3日「世代間交流意見発表会」は発表者は中学生、高校生、成人、高齢者、外国人の8名、各世代を代表した発表は聴き応えのある内容で好評でした。

次世代を担うユースの声

国際理解バスに参加して —未来を見据えた小さな一歩—

育英大学教育学部スポーツ教育専攻3年
馬場 純未

私は今回、ユネスコのプログラムに大学生スタッフとして参加し、中学生25名とともに JICA 地球ひろばとカンボジア大使館を訪れた。ユネスコの役員の方々や大学生も加わり、1日を通して国際理解を深める学習を共に行った。私はバスガイドを務め、司会進行や人数確認を担当したほか、活動が円滑に進むように声掛けを行った。生徒が安心して参加できる雰囲気づくりに努める中で、小さな働きかけが子どもの学びや自信につながることを実感した。

この経験を通して考えたのは、私たち一人ひとりの小さな行動が、やがて大きな社会の変化に繋がるということである。世界には、貧困や教育格差、環境問題など多くの課題が存在している。こうした問題を前に、個人にできることは限られていると感じがちだが、佐藤さんの講演で紹介された海外協力隊の活動は、そのような思い込みを打ち破るものであった。1人の行動が地域社会を支え、国境を越えて人々の生活を支える力になっている姿は、世界の幸せを築く上で大切な示唆となった。

私は中学生の頃に初めて国際協力に触れ、憧れを抱いたが、行動には移せずにいた。しかし今回、中学生と並んで再び話を聞き、自らも挑戦できるのではないかと感じるようになった。講演後に佐藤さんへ質問をし、大学生としてどのように関わることができるのかを伺ったことで、将来的に海外青年協力隊として活動する道も現実味を帯びてきた。自らが国際協力に携わることはもちろん、教育者を目指す者として、子どもたちに世界の課題を自分事として考えさせる教育を実現することも「未来へつなげる」大切な役割であると気づいた。

世界の幸せのために私たちができることは、必ずしも大規模な活動である必要はない。身近な取り組みからでも世界につながることは可能であるはずだ。例えば、今後大学で取り組む書きそんじはがきの回収活動は、資源の有効活用を通じて発展途上国への支援につながる。こうした活動に主体的に関わることは、限られた範囲であっても確実に未来へと影響を与える一歩となる。そして、その姿勢を周囲に広め、仲間と共に取り組むことで、より大きな力となり得るだろう。

今回のプログラムで得た学びは、将来中学校教諭を目指す私にとって大きな意味を持つ。中学生が主体的に学び、世界に目を向ける姿を支える経験をしたからこそ、教員として「小さな一歩が未来につながる」ということを子どもたちに伝えていきたい。世界の幸せを築く道は容易ではないが、一人ひとりの行動が確かに未来を形作っていく。そのことを胸に刻み、私はこれからも学びと実践を重ね、未来へつなげる教育に携わっていきたい。そして、教育の場を通して子どもたちが世界と関わる喜びを知り、次の世代へと行動を受け渡していけるような循環をつくっていきたく強く思う。



▲ JICA でのワークショップ

関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 深谷
渋沢栄一精神でSDGs実践へ
一次世代の担い手育成に取り組む
 藤岡地方ユネスコ協会 岩崎 哲

「次代につなげよう平和の心ー戦後80年、今できることはー」をテーマに関東ブロック・ユネスコ活動研究会in深谷(主管=深谷地方ユネスコ協会、寄居地方ユネスコ協会)が9月27日、埼玉県深谷市の深谷市民文化会館で約300人が集まって行われました。

戦後80年を迎え「埼玉の偉人、渋沢栄一翁」の精神と「ユネスコ理念のSDGsの目指すところに相通ずる」ものがあるとして、発表内容も渋沢栄一にちなんだ題材が中心となりました。



▲ オープニングセレモニー

基調講演では前深谷市教育長の小柳光春氏が「ふるさとを愛し、夢を持ち志高く生きる子どもたち～深谷市“ふるさと教育”のめざすもの～」について語りました。同市の教育基本計画に掲げられた「立志と忠恕」を基に「持続可能なまちづくりの担い手の育成」に取り組み、具体的には「ふるさと ふかや・渋沢学」推進会議を組織し「ふるさと教育」を推進した経緯を説明しました。



▲ 太田ユ協の発表

続く事例発表では深谷地方ユ協の「地域に根ざしたまちづくりの担い手になるために～栄一翁を学び、栄一翁の心を受け継ぐ～」についてと、群馬県太田ユ協による「諸外国交換ユネスコ児童・生徒作品展」が紹介されました。

深谷といえば、令和3年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」でも取り上げられた「日本資本主義の父」渋沢栄一をまず想起しますが、深谷市ではその渋沢を中心に据えた取り組みが熱心に行われているとの印象を強くしました。特に「論語と算盤」で論語の精神はユネスコ精神にもつながるとして、渋沢を通したSDGs理解など、ユニークな取り組みが参加者の関心を集めたようです。

第81回ユネスコ運動全国大会 in 金沢
～テーマ「能登半島の創造的復興を目指して」～
に参加して
 高崎ユネスコ協会 松本 千恵子

令和7年10月18日穏やかな秋の1日。金沢駅に隣接する石川県立音楽堂邦楽ホールで第81回ユネスコ運動全国大会がベトナムからの参加者を含む約300名で開催された。令和6年元旦の地震、9月の大雨と2度の災害に見舞われた石川県能登半島の「日常」(単なる再建ではなく創造的再建と持続的なコミュニティの再構築)への歩みを伝える大会であった。

オープニングはキッズジャズバンドの演奏。続いて、伝統を継承する中学生の本格的な能・狂言、脳出血からの復帰を目指す井上あずみ氏とその娘ゆーゆーによる「君をのせて」ほかの歌、俳優西村まさ彦氏が自らの奥能登被災地への支援物資緊急搬送について語る飛び入り参加もあった。

メインは6人のパネリストによるパネルディスカッション。自然の恐ろしさと田舎の人間関係が安否確認を容易にすることを知り、災害を自分事とし、地域と結びつき、家の内外に家族で避難場所を決めておく大切さを学んだ。

ユースは受付、司会(高校生4名を含む)6名、アトラクションでも活躍。次世代への継承に期待を抱かせた。



▲ パネルディスカッション

翌日の日帰りエクスカージョン「白山手取り川ジオパーク」は、天候と「かつ先生」「ジオ博士」2人のガイドに感謝。素晴らしかった。事前の危険箇所修復による立入禁止解除、前日のスズメバチ駆除、当日の熊よけ対策と峡谷の遊歩道誘導。周到的準備と細やかな心遣いで平均年齢70越えの参加者に転ぶ者やけが人は1人も出なかった。「五感のアンテナ」で味わった8つの滝、教子のバイオリニストによる木漏れ日コンサート。川音を伴奏に聴いた「ユーモレスク」は今も心に残っている。

県外の友人を得、昼食時にはオランダ人カップルと国際交流も楽しんだ。

地域の垣根を越えて会員が集う貴重な交流の場とする今大会の目的は果たされ、実り多い大会となった。



2026年度「関東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 群馬」

沼田市にて開催

大会テーマ「広げよう 平和の心—持続可能な社会の実現を目指す民間ユネスコ活動—」

沼田市は戦国時代から真田氏等の居城・沼田城の城下町として栄え、近隣には吹割の滝、尾瀬、谷川岳などの自然、また水上をはじめとした温泉群、道の駅として人気を誇る川場田園プラザなど、歴史と自然、観光資源の豊富な地域です。多くの会員・一般の方々の参加をお待ちしています。

1 大会趣旨

2023年にユネスコ「平和・人権および持続可能な開発のための教育勧告」が50年ぶりに改訂され、永続的な平和をもたらし、人間開発を促進するため、①平和に関する新たな理解②持続可能な開発のための教育③グローバル・シティズンシップ教育④ジェンダー平等と教育⑤デジタル時代の教育等が世界的基準として示されています。

グローバリズムが存在価値を問われ、国際社会の協調の危機、そして国内においては地域社会の連帯の危機の中、私たちは何をなすべきか、何が期待されているのか、これからの民間ユネスコ活動の役割は何かを課題意識とし、協議を進めていきたいと思えます。

今回、自然と人間が共生する森林文化都市・沼田市を研究会場とし、分科会のテーマ①平和活動・世界寺子屋運動と国際協力②ESD/SDGs・ユネスコスクール活動③世界遺産・未来遺産・自然との共生のもと、関東ブロック会員相互のネットワークの推進と活性化を図りたいと考えています。

2 主催 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
関東ブロック・ユネスコ連絡協議会
群馬県ユネスコ連絡協議会

3 後援 群馬県、群馬県教育委員会
沼田市、沼田市教育委員会

4 期日 2026年10月24日(土)

5 会場 利根沼田文化会館
【開会行事 基調講演 分科会 閉会行事】
〒378-0051 沼田市上原町1801-2
☎0278-24-2935
ホテルベラヴィータ 【交流会】

6 基調講演

講師：道田 豊氏
東京大学大気海洋研究所特任教授
ユネスコ政府間海洋学委員会(IOC)議長

7 分科会

第1分科会 「平和活動・世界寺子屋運動と国際協力」
提案発表1《埼玉県》 提案発表2《茨城県》
第2分科会 「ESD/SDGs・ユネスコスクール活動」
提案発表3《東京都》 提案発表4《千葉県》
第3分科会 「世界遺産・未来遺産・自然との共生」
提案発表5《栃木県》 提案発表6《群馬県》

8 主な日程

9:30～10:20 受付
10:20～10:40 オープニングイベント
10:50～11:20 開会行事
11:20～12:30 基調講演
12:30～13:15 昼食・休憩
13:15～15:25 分科会
15:25～15:40 移動・休憩
15:40～16:40 閉会行事
○国内委員会報告 ○日ユ協連報告 ○青年評議員報告
○分科会報告 ○次年度開催県挨拶 ○閉会宣言
16:40～17:00 移動 ホテルベラヴィータへ
17:10～17:30 人形芝居鑑賞 プロジェクト未来遺産
『沼須人形芝居あけぼの座』
17:40～19:00 交流会



▲霧に浮かぶ天空の城下町



▲沼田から見た：谷川岳

あしがき

本年も主催事業報告、各ユ協からの活動報告を掲載できました。文章に書ききれない会員皆様のご苦勞や活動への思いが、小中学生をはじめ、地域・社会に影響を与え、少しずつでも平和、文化、科学の発展に貢献していくユ協活動についての理解を、本広報より読み取っていただけたら幸いです。

「継続は力なり」と言われています。毎年同じ活動がありますが、続けていくことが、我々会員の力となり協会の原動力となっていくと思えます。本年もお世話になりました。

(事務局長 依田 治雄)

あけまして
おめでとう
ございます

2026年 新年賀詞ご芳名



群馬県ユネスコ連絡協議会

前会長 岸 正博
副会長 中村 利光
副会長 串田 昭光
副会長 石田 宇平
事務局長 依田 治雄
他役員・理事一同

桐生ユネスコ協会

名誉会長 北川紘一郎
会長 田中 一枝
副会長 下山 進平
副会長兼事務局長
大友 一之
事務局次長 高柳 光雄

太田ユネスコ協会

会長 中村 利光
副会長 馬場 敏生
副会長 稲毛 潔
副会長 木村 光
副会長 金谷 光明
副会長 津布子寿夫
副会長 清水 克則
事務局長 磯崎 一博

前橋ユネスコ協会

会長 須藤 英雄
副会長 福島 輝巳
副会長 関根 長之
副会長 高島 美幸
副会長 宮川 孝子
副会長 中村 丙午
副会長兼事務局長
樺澤富美男

伊勢崎ユネスコ協会

会長 長沼 宏泰
副会長兼事務局長
矢内三四卯
副会長 横澤 克明
副会長 坂田 勝美

高崎ユネスコ協会

会長 串田 昭光
副会長 田中けい子
副会長 清水 哲夫
副会長兼事務局長
山崎 貞幸
副会長兼事務局次長
松本千恵子

富岡ユネスコ協会

会長 齋藤 勝也
副会長 磯田 哲也
副会長 神道 良則
副会長 黒澤 淳雄
副会長 浅井 明美
副会長 矢野 勅仁
事務局長 黒澤 秋彦

沼田ユネスコ協会

名誉会長 小林 照夫
会長 石田 宇平
副会長 宇敷 和也
副会長 森田 経代
副会長 佐伯まゆみ
副会長 遠藤由美子
副会長 原澤 直久
副会長 小野瀬和男
副会長兼事務局長
大島 俊夫

館林ユネスコ協会

会長 大野 泰弘
副会長 奥野 栄通
副会長 小林 悟
副会長 石井 洋史
事務局長 吉田 悦子

安中碓氷ユネスコ協会

会長 矢野 薫
副会長 矢野 篤
副会長 瀧田 和則
副会長 瀬山 善郎
副会長 小林 克行
事務局長 小日向和博

藤岡地方ユネスコ協会

前会長 岸 正博
副会長 依田 治雄
副会長 新井 松江
副会長 平居 利朗
副会長 西澤 恭順
副会長 萩原裕一郎
事務局長 岩崎 哲
事務局次長 木村 順子
書記会計 貫井真由美

大泉ユネスコ協会

会長 寺西 弘之
副会長 槻岡 則夫
副会長 石井 克己
副会長 清水 喜義
事務局長 長澤 尚文

群馬県ユネスコ連絡協議会 加盟団体

- ▶ 桐生ユネスコ協会
- ▶ 太田ユネスコ協会
- ▶ 前橋ユネスコ協会
- ▶ 伊勢崎ユネスコ協会
- ▶ 高崎ユネスコ協会
- ▶ 富岡ユネスコ協会
- ▶ 沼田ユネスコ協会
- ▶ 館林ユネスコ協会
- ▶ 安中碓氷ユネスコ協会
- ▶ 藤岡地方ユネスコ協会
- ▶ 大泉ユネスコ協会

編集・発行

群馬県ユネスコ連絡協議会
群馬県前橋市大手町1-1-1
群馬県教育委員会生涯学習課内
TEL : 027-226-4666

編集・印刷

株式会社大塚カラー
群馬営業所
群馬県高崎市足門町1637-7
TEL : 027-384-3307